

6/4GHz 交差偏波補償方式

1977 年（昭和 52）、新方式の 6/4GHz 交差偏波補償方式を開発した。インテルサット衛星では通信容量を増大するために直交偏波を用いた周波数の多重使用が行われているが、降雨に際して、交差偏波識別度の劣化が生じるという問題があった。従来の偏波補償方式では、この劣化を十分に補償できなかったが、新方式では二つの 90 度移相器を使用することにより、特性改善を実現した。

出典：KDD 社史